

劇場の、そしてあなたの欲望が、「マクベス」に浸食する。



MACBETH

MACBETH

Written by W.Shakespeare
Translated by Kazuko Matsuoka
Directed by Keishti Nagatsuka

シアターコクーン・オンラインバー19—2013
チケット一般発売
2013年9月28日(土)

- 作 W. Shakespeare
- 翻訳 松岡和子
- 演出 長塚圭史
- 出演 堤真一
- 常盤貴子
- 白井晃
- 小松和重
- 江口のりこ
- 横田栄司
- 市川しんぺー
- 池谷のぶえ
- 平田敦子
- 玉置孝匡
- 福田軋球
- 芥藤直樹
- 山下禎啓
- 中嶋しゅう
- 三田和代
- 風間杜夫



作 W・シェイクスピア
 翻訳 松岡和子
 演出 長塚圭史
 出演 堤真一
 常盤貴子
 白井晃
 小松和重
 江口のりこ
 横田栄司
 市川しんぺー
 池谷のぶえ
 平田敦子
 玉置孝匡
 福田軋球
 斉藤直樹
 山下禎啓
 中嶋しゅう
 三田和代
 風間杜夫
 六木木康弘
 純田雄哉
 松浦俊秀
 井上象栄
 伊藤総
 前地人

2013年12月8日(日)~12月29日(日) Bunkamura シアターコウーン

12/8	9/日	10/火	11/水	12/木	13/金	14/土	15/日	16/月	17/火	18/水	19/木	20/金	21/土	22/日	23/月	24/火	25/水	26/木	27/金	28/土	29/日
13:00																					
14:00																					
18:00																					
19:00																					

<チケット料金 (全席指定・税込)>
 S席/特設S席 9,500円 コクーンシート 5,000円

<チケット取扱い>
 ※発売初日のみ、1回の受付につき4枚までの枚数制限がございます。
 ※0570で始まる電話番号は、一部の携帯電話・PHS・IP電話・CATV 接続電話からはご利用できません。
 ※9/29(日)以降は残席がある場合のみ、お取扱いいたします。
 ※特設S席、コクーンシートとチケットぴあのみでの取り扱いとなります。

▶Bunkamura チケットセンター (10:00~17:30 オペレーター対応)
 03-3477-9912 (発売初日特電)
 03-3477-9999 (9/29以降)

▶Bunkamura オンラインチケット【要事前登録】
<http://www.bunkamura.co.jp/online/> (PC・携帯共通)

▶Bunkamura チケットカウンター (10:00~19:00)
 9/29以降、残席がある場合のみ。発売日初日の取扱いはございません。

▶チケットぴあ
 0570-02-9950 (9/28 10:00~23:59 / Pコード不要)
 0570-02-9999 (9/29以降 24時間・自動音声応答システム / Pコード: 430-188)
<http://pia.jp/t/macbeth/> (PC・携帯共通)

▶ローソンチケット
 0570-084-635 (9/28 10:00~18:00 / Lコード不要)
 0570-084-003 (9/28 18:00以降 / Lコード: 33306)
 0570-000-407 (9/28 18:00以降 / オペレーター対応 10:00~20:00)
<http://l-like.com/macbeth/> (PC・携帯共通)

▶ローソン、ミニストップ各店舗 (店内 Loppi)

▶イープラス
<http://eplus.jp/macbeth/> (PC・携帯共通) ファミリーマート各店舗 (店内 Famiポート)

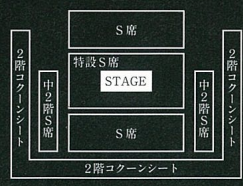
MACBETH マクベス MACBETH
 Written by W.Shakespeare
 Translated by Kazuko Masuda
 Directed by Kazuo Nagatsuka

チケット一般発売 2013年9月28日(土)AM10:00~

客席形状に関して

この公演は舞台を客席が取り囲むセンターステージ形状での上演となります。

特設S席 ●舞台に近いエリアのお席です。座席位置は、当日劇場にてご確認ください。
 ※複数枚お求め頂く場合、座席でご購入いただいてもお席が舞れる場合がございます。予めご了承ください。●通常の客席椅子とは異なり、背もたれ付きのベンチシート (肘掛はございません) となります。



美術: 池田ともゆき 照明: 小川幾雄 音響: 加藤 温 衣裳: 伊藤佐智子
 ヘアメイク: 稲垣亮武 殺陣: 諸賀裕治 演出助手: 山田美紀
 舞台監督: 芳谷 研

2013年11月、Bunkamuraの
 オンラインサービスが生まれ変わります!
 詳細はBunkamuraホームページへ

※未就学児童のご入場はご遠慮いただいております。※コクーンシートは、ご覧になりにくいお席です。ご了承の上、ご購入ください。※開演時間を過ぎますと、ご入場をお待ち頂いたり、ご自分のお席にお座り頂けない場合もございます。予めご了承ください。※車椅子でご来場のお客様は、当日スムーズにご案内させていただきます。公演前日までにBunkamuraまでご連絡ください。※学術目的でのチケットのご購入ならびに転売は固くお断りいたします。
 宣伝美術: 根本太郎 宣伝写真: 江崎雄之 宣伝イラスト: なまきわたあお
 宣伝衣裳: 伊藤佐智子 宣伝ヘアメイク: 稲垣亮武

お問合せ: Bunkamura
 03-3477-3244 (10:00~19:00)
<http://www.bunkamura.co.jp/>

企画 製作 Bunkamura

マクベス

夫妻の

病

岩波明

「狂気」に陥る。小田島雄志氏によれば、シェイクスピアの描く狂気は三種類に分類されるという。正気を失った完全な狂気（「ハムレット」のオフィリアなど）、狂気を装った佯狂（「リウ王のエドガー」など）、そして自制心を失った非狂乱の状態（「オセロ」の主人公など）である。マクベスとマクベス夫人について考えてみると、二人とも一番目と三番目の「狂気」が混在している。

マクベスは、国王殺しの殺人者だ。それも、残酷で無慈悲な人殺しである。君主ダuncanを殺戮するだけにとどまらず、猜疑心からかれて盟友、バンクオーを葬り去り、逃亡した貴族の一族を全滅させた。マクベスは両手だけではなく、全身を犠牲者の血で真っ赤に染めていたのだ。この血生臭い物語が、四〇〇年あまりの歳月を経ても色あせることなく、人々の心を揺さぶるのはどうしてなのだろうか？

犯罪者としてのマクベスは、周到でもなければ、秘密でもない。当初の彼は、犯行を躊躇していた。国王殺しは、マクベス夫人に促された衝動的な行動だった。だがマクベスにとって、同情すべき状況もあった。戦場で最大の功労者であったマクベスはダuncanの後継者になれると内心期待していたが、ダuncanは彼を裏切つて息子を指名したからである。

凶行の直前、マクベスの前に、二には見えても掴めない短剣の幻が現れる。マクベス自身は、「熱にやられた脳が生み出すまやかしい「過ぎないのか」と、それが幻覚であることを自覚していた。ダuncan殺害後、マクベスは偽の犯人を仕立て上げ、逃亡した王子たちに罪をなすりつけた。だが、状況証拠からすれば、マクベスは「真つ黒」だった。犯行現場はマクベスの居城で、もともと利益を得たのは、王位を奪つたマクベスだからである。一見すると大胆不敵で豪胆だが、実は臆病で小心なマクベスは、犯罪が露見し自分の命が狙われるのではないかと恐怖で震えあがった。

この恐怖心が、マクベス夫妻の行動を狂わせた。二人は、はからずも自分たちから犯行の秘密を暴露してしまう。臣下を集めた晩餐でのごと、錯乱したマクベスは、暗殺したバンクオーの亡霊がいる

と語つて騒ぎ、「血まみれの髪を俺に向かつて振り立てるな」と興奮する。バンクオーの幻影は、マクベス以外のものには見えなかった。これは「幻視」である。幻視は幻覚の一種であり、存在しない事物を、視覚的に知覚する現象である。幻視は、さまざまな精神疾患でみられる。統合失調症においても出現することはあるが、頻度は少ない。幻視は、脳腫瘍や認知症など脳の器質的疾患やアルコール、薬物依存において出現することが一般的であるほか、不眠や過重なストレスが原因で生じることもあり、マクベスの場合はこれが誘因となった。

マクベスの精神的な変動は一時的なものだった。宴席では発作的に錯乱したが、それ以後は落ち着きを取り戻した。マクベスの症状に診断をつけるとすれば、現在の診断基準では、「短期精神病性障害」となる。この病名は従来「反応性精神病」「急性錯乱」などと呼ばれた疾患である。短期精神病性障害においては、幻覚、妄想などの精神病の症状が数日から数週間出現するが、その後はほぼ完全に回復する。これが統合失調症とは異なる点である。マクベスにおいても幻視とともに周囲に猜疑的で被害妄想と言えらる症状がみられたが、混乱した状態を短期間で乗り越え、再び自ら奮い立ち、「風よ、吹け！ 破

滅よ、来い！」と叫びながら、戦乱に身を投じたのだった。

一方、マクベス夫人の症状は、どう考
えればいだろうか。冒頭において彼女
は、「殺意に仕える悪霊たち、いますぐ
私を女でなくし、頭のとつべんから爪先
まで、とす黒い残忍さでいっばいにし
て」と積極的に殺人に加担したが、や
がて罪の意識に苛まれ、自らの犯罪につ
いて暴露する行動をとつてしまふ。睡眠
中にマクベス夫人は、眠つたまま奇殿内

を歩き回り、呪いの言葉を口ばしりなが
ら、手を洗い動作をしきりに続けた。さ
まよい歩く彼女の行動はいつも同じパタ
ーンで、歩く道筋も、手のしぐさやささ
やく言葉も毎回同じであった。

この症状から第一に考えられるのは
「睡眠時遊行症」、いわゆる夢遊病である。
この疾患は、睡眠中に起き上がり、歩き
回ることを繰り返すもので、遊行中はう
つろな表情で視線を動かさず話しかけて
も反応はわずかである。覚醒したときに
は、その間の記憶がない。症状の持続は
通常十五—三十分程度で、小児に頻度が
高い。この疾患では遊行中に重大犯罪を
起こす事例が報告されているが、薬物の
摂取と関連している例が多い。第二に、
睡眠時遊行症と類似している「レム睡眠
行動障害」が考えられる。これは高齢者
に多い疾患で、レム睡眠時に夢の内容に
従つて、大声で叫ぶ、殴る、蹴る、飛び
跳ねるなどの行動がみられる疾患である。
レム睡眠とは睡眠段階の一種で、浅い睡
眠に急速な眼球運動が伴うもので、夢を
見ていることが多い。睡眠時遊行症とレ
ム睡眠行動障害の区別は難しいが、レム
睡眠行動障害においては、夢幻行動中に
覚醒させると夢の内容を語ることができ
るという特徴がある。

何度も手を洗い続けるマクベス夫人の

行動は、精神医学の用語で言えば「強迫
症状」に類似し、不合理であるとわかっ
ているにもかかわらず、強い不安のため
常同的な行動を繰り返すものである。犯
行の前には、「一旦やると誓つたなら」「子
供の脳味噌を叩き出してみせます」と言
つた彼女であったが、思いのほかその精
神は脆弱で、犯行の重荷に堪えかねて自
ら死を選ぶ運命を担つていた。

これに対して、精神的に回復したマク
ベスは、以前よりも、人格的な重みを持
つように描かれている。臆病で小心もの
の犯罪者であった彼は、「ヴィレン・ヒ
ーロー（悪党の主人公）」あるいは「邪悪
の王」とでも言ふべきある種の高貴な存
在に姿貌したのである。夫人の自死の知
らせを聞いた時、「消えろ、消えろ、束
の間の灯火！ 人生はたかが歩く影、哀
れな役者だ」と見暮を切るマクベスの姿
は、崇高な理想を持つ哲学者にも思えた
が、それは一瞬の輝きであり、戦乱の中
敵の刃に届いて血の海の中に斃れたので
あった。

いわなみ・あきら

精神科医、昭和大学医学部教授。
著書に「狂気という原人」「狂気の
偽装」「心に狂いが生じるとき」
「精神科医が読み解く名作の中の
病」（以上新潮社）、「文豪はみんな、
うつ」（幻冬舎）など。